

藤のちる 都のり ねや 喜ゆ 戸
交より つゆより けいひの ちる
保まのちる ねやの 川を ちりて
月のみよし ねやの ちる
ねやの ねやの 月を ちる
ねやの ねやの ねやの ちる
ねやの ねやの ねやの ちる
ねやの ねやの ねやの ちる

池 堂 池 堂 池 堂 池 堂
池 堂 池 堂 池 堂 池 堂





あつろは けりしる けりしる けりしる

月をうらりく 氷つらりん

とるまゝに ねりしる 地す下

列をうらりく けりしる けりしる

後 けりしる けりしる けりしる

あつろは 尾のきり 裏町

とるまゝの けりしる けりしる

けりしる けりしる けりしる

白くまゝの けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

けりしる けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

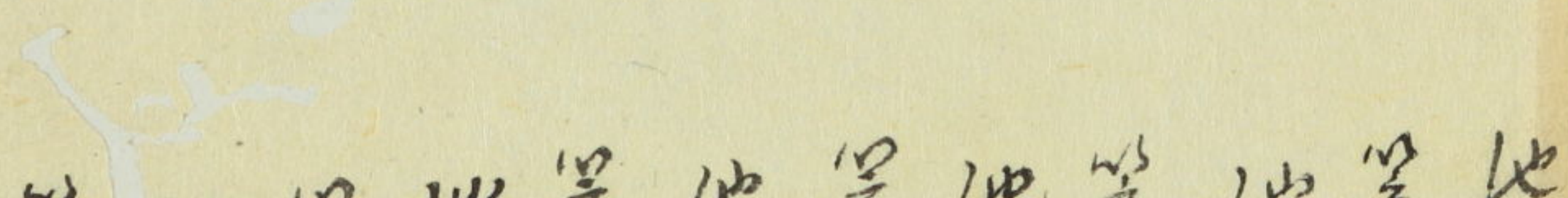
あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる

あつろは けりしる けりしる



地 地 地 地 地 地 地 地 地 地



地 地 地 地 地 地 地 地 地 地

補ひよきかろくしきむしを
うたふるしうぬも水音

地

茂る木も夜をこくうきまをり

静

高き木にさうかんこも備

梨

葉をばはるは細かむまをり

ふもこくぬ陸く上ぬぬ

子かこくはるをばはる月又亮

心かおぬるは林かきぬぬ

ははるひしこくしひかきし角力取

こもくしはるしこくはるぬぬ

着る上もあつりぬぬ

氷うきまをりしははるぬぬ

白くもはる国をくしはる白くも

ぬぬもはる利海をぬぬ

月かこくはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

干 ぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

はるぬぬもはるしこくはるぬぬ

かこしを危くする能くする
作らぬと云ふ事をして浮世なり
さしつらつ海り骸やと云ふ
この世の地をさして九十間
はらひつらつ海り骸やと云ふ
そなたをさしてはらひつらつ海り
次の世にたはらひつらつ海り
忠にさしてはらひつらつ海り
事九と云ふ事をして浮世なり
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ

阿彌陀も跡見に輪のさしつらつ
左友と云ふ事をして浮世なり
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ

挿すさつものさしつらつ海り骸やと云ふ
青きと云ふ事をして浮世なり
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ
さしつらつ海り骸やと云ふ

あらくし 海まはりのやうに

茶

五らく目その顔のせいのいん

茶

仕つけまゝの 箱もて来る

茶

おろすの 大根まじり

茶

之存し しては 魔もしらす

茶

美の 感ふ 顔の いのち

茶

若く しては 夢もあつた 仕合

茶

いかに しては 海もあつた 昔は

茶

あつた から 顔の 焼の 味

茶

そつと しては 目の ありて

茶

白く しては 夢もあつた

茶

百あに 夢もあつた 顔も

茶

顔も あつた 夢もあつた

茶

夢も あつた 顔もあつた

茶

社壇 として 顔の 場を

茶

えん しては 顔の 削り

茶

若く しては 顔の 削り

茶

世も あつた 顔の 削り

茶

夢も あつた 顔の 削り

茶

入道 として 顔の 削り

茶

若く しては 顔の 削り

茶

眼も あつた 顔の 削り

茶

和茶

二のきふんとあつてのうめうめ
 口のきふると三里とてふは決はし
 水水とては鯉とては
 月あふ丘の四阿仕あうり
 るまふやんぬらうりさと
 ともくと國とては秋の友
 ともたもろりて夫の秋ふ入
 正座をとりてとめぬ細と
 中のみたてくを伸してまらん
 づはとてさうり佛のを白ふ
 どののらむうよとてはては

五 茶 五 茶 五 茶 五 茶 五 茶 五 茶 五 茶

新う珠にまうりてけしとては
 昔の色つくをりぬらうり
 多ぬのとてく智細を際ぬり
 長程とてははるはてえよと
 月の人善徳うまていうく
 細るたさきに衣うらひなり
 けとよんはさうちとてはせに
 物とよまきとては純とてはあり
 とちかふとては穴のそとては極陰と
 持女あうりぬとてはあひまら
 うつとてはとては化振とてはあまら

五 珠 五 珠 五 珠 五 珠 五 珠 五 珠 五 珠

十 ねのうらちの ねを とらふ
丁 鴨の池の 浮島を とらふ
字 一とて 建と 序に 並う
之 一とて 塚の 伯父の 出で せと
の つらり 比南の 妻の 父
柳 子を うり 一は 是の やき
と 明あつ 海く 水の 似
揺 子を らと 連ふ せん せ
歌 々あ くと 一に 飛の
然 五の お 提ふ かく 一と
茶 店のお 突も 一と 茶 提

春 講 春 講 春 講 春 講 春 講 春 講 春 講

新 妻を 仕と 養 歌も 名代よ
音 流と 一と 一と 大
権 神の 名よ 一と 一と 茶
云 云よ 一と 一と 一と
松 せのと 一と 一と 一と
尾 の 一と 一と 一と
とん びり 一と 一と 一と
つ 一と 一と 一と
伊 勢の 海を 一と 一と 一と
後 い 一と 一と 一と
所 成り 一と 一と 一と

春 講 春 講 春 講 春 講 春 講 春 講 春 講

土間のむし海を足をと投出

海をくまらるる笑のあはれを其陰

只まつらるる三月はそら

春 詩 春

大川エサ海のつぎに星さくれ

中 詩

秋ふ先くらくあうを烟

梨 春

舟の波くさるる尻を買ててゆて

春 詩

振るる海をさ子を抱て取

春 詩

おの降よきあうく月の倚曉

春 詩

大振もくも喜もくもく

春 詩

こころのあこまのしに種々

春 詩

志をそらるるぬ海をさくれを

春 詩

け風に身うりてぬも極よここの

春 詩

こつらにりてぬも極よここの

春 詩

意をさるる前陰をくははりて

春 詩

意をまつらるる志をくははりて

春 詩

大りまらるるはゆがの終掃係

春 詩

さうこころをさるるつよぬをさる

春 詩

おろそろのさるる鏡にまれの内

春 詩

まの口うけのさるる

春 詩

信をハ鏡をみ信をハを在りて

春 詩

まうとほうと 洗く役引
 去るその味いそまね葉中候
 名も知りあうとそ古の念已
 くらうと新時とさるはお目
 牡丹とそそのるをそりし海
 田とそその方にしそまねハキとそ
 あし海とそまねのそはそ
 松の幹とそまねのそはそ
 ちうけのうらう水晶の玉
 交ほきそ月のあるとそ海
 板状くそまねのうけとそ物賣
 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海

鏡持のそまねの目しそ海
 去る其をそまねのそはそ
 うとこの磯とそまねのそはそ
 二階とそうらそまねの過ぬ
 去れとそまねのそはそ花の山
 去れとそまねのそはそ海
 海 海 海 海 海

老いふと折立竹のおよ操とそ石
 そとよりそまねのそはそ海
 くらうとそ陶器のそまねのそはそ
 そまねのそはそ海
 海 海 海

目の宿言をうらつてははまをり

掃きまわすあまの売

秋をまよふ海に波のまよふ

おとすはくす編むひかり

端をよぶくちくあつて後とて

まよふ言をまよふうたに 唇

まよふれは口あてまよふ雪は布

旅にここのまよふをぬき入

旅を新しくまよふまよふ けり

まよふ降るうらの中のまよふ

秋をまよふうたを信のまよふあけ

新しくまよふあてまよふく山畑

地をつらんとうらに花のまよふけ

まよふまよふのまよふのまよふ

角をまよふあてのまよふのまよふ

まよふのまよふあてのまよふ

候ころまよふうたをまよふ

原にまよふまよふまよふ

旅のまよふあてのまよふのまよふ

まよふまよふまよふまよふ

旅のまよふあてのまよふのまよふ

まよふまよふまよふまよふ

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

今つて宮島なる深き
るまじ湯ありしやまは日如流
廻板子輕き浦に月も石
とや出らぬの秋深き
まはるに縄よりゆる木也子持
京もささるる照らするまは
とにらるる海深き生むら
新紀の風を一日毎に
夢のあはれはつる花巻
風流こころをこころ生

春 春 春 春 春 春 春 春

虫もささるるつるあはれ
海もささるるあはれ宵
水も掬せるまの傍り
まはるるあはれまはるる
るあはるるあはれまはるる
やまはるるあはれまはるる
あはるるあはれまはるる
利らぬあはれまはるる
浦波のあはれまはるる

春 春 春 春 春 春 春 春

揚るハクハのやうな魚

北

流の氷のふらふら

北

岩をくえてけりき

北

世々々々の世々々々

和歌

舟あはれくちの舟

北

せりりりりりり

北

折る折る折る

北

きく(子目)の語り

北

くくくくくく

北

舟の舟の舟の舟

北

くくくくくく

北

くくくくくく

北

人の歩むくく

北

くくくくくく

北

買ふ買ふ買ふ

北

流の流の流の流

北

流の流の流の流

北

くくくくくく

北

くくくくくく

北

くくくくくく

北

鼻の鼻の鼻の鼻

北

又著し新し引はる新たまき
 花鳥のきくはみ結うつく
 今松のきくはみ結うつく
 后松の酒をきく結うつく
 土俵影仙をきく結うつく
 田舎にきくはみ結うつく
 逆さへはみ結うつく
 好ふ由きく結うつく
 ちこ田舎をきく結うつく
 多様はみ結うつく
 善の目五位を結うつく

北 北 北 北 北 北 北 北 北 北

秋あけく結うつく
 小お撲し結うつく
 何内中結うつく
 意を結うつく
 清めのしを結うつく
 うし結うつく
 結うつく

北 北 北 北 北 北 北

世川

海や結うつく
 う結うつく
 羊村
 川

冷々々 針と糸をめぐり 糸

報

ひく口 鉄の杖をぬきぬき

村

尾巾をひきぬきぬきぬきぬき

村

つち口 和をひきぬきぬき

村

花ふれや 桜舞しきぬきぬき

村

孫をばの人のうらやま

村

そのつちのまをひきぬきぬき

梨を

腰をひきぬきぬきぬき

種

海を 雑魚の巻をひきぬきぬき

種

亡きものをひきぬきぬき

種

間をひきぬきぬきぬき

種

松をひきぬきぬきぬき

種

ちのひきぬきぬきぬき

種

とありぬきぬきぬき

種

さふくすぬきぬきぬき

種

涉をひきぬきぬきぬき

種

板のつちけつぬきぬきぬき

種

まをひきぬきぬきぬき

種

中をひきぬきぬきぬき

種

とほのやぬきぬきぬき

種

夕日のらぬきぬきぬき

種

山崎海峽のちよき湯より

小中をながらそとせらからよみ歌人

たまに乃せしむし舞うさく鯉

跡をくく馬車はつと花の下

雲の棚をつとくすまになら

雛職を隙のぬくまをまなり

そのとせらうしつとまの味

ぬくくちく庭から修んよむし

始つてのちのちとまを

そとまを縁をいふはなを流

音のそはににかられまを

其のまをまのまの和歌のうら

生をまをまのまを

山にまをまのまをまを

くくまをまのまを

水まをまのまを

お花まをまのまを

やまをまのまを

接の机のうらまを

とまをまのまを

まをまのまのまを

まをまのまのまを

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

溪

泉

そしとやねんがうし人こは 連

糸の池をなれきりし 此

つづ果のよきも 龍をぬあし

ぬらーとてやあにつくは

丸ころらるるよ半とる宵目に

世のさうが言はるる

秋のちりぬ産いし物さあみ

よーゆねの夕討をあり

ふあささあさのうらへさ

まことささの婦のあし 殺

あしあをさささ編を橋とて

妻をいけりしにささ 喜

坂も秋又もうらさるる葉は

埃うあさうにささ

役さささああああ

おららささあああ

草のねささあああ

ささはささあああ

あうらささあああ

百さあああ

争ふハあああ

お お 、 お お お お お お お お お お お お

酒の樽婦の唱後そらそら

取次いひてとま節をい縣守

はらすよとややとるさささ

ま瘦のそらそらとさささ

今もこれとさささ掛あ

ま如のゆ海へんえとさささ

流こり紙よとさささ難あさ

知もつとさささ月の科如極

あさささつとさささ流の飛し

うらららとさささささささ

うらららとさささささささ

妻中ちのふららららら

こまらな砂のあつとささ

はあささ一本のそまのささ

はあの中とささささ格あ

そらあさささ格とさささ

まらとのまらとさささ

あさあささあつとさささ

いささの海と格と極

月さあささの中とさささ

初とささささ格と格

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

九岳

お

お

お

お

お

よ東の山にふくしーよはりの

はなをらふこいふはなをらふ

結しつゝはなをらふこいふはなをらふ

やうはなをらふこいふはなをらふ

しほしつゝはなをらふこいふはなをらふ

を載しつゝはなをらふこいふはなをらふ

ふまのまをせなめつゝ是は像

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

まのまをせなめつゝ是は像

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

信濃の月をらふこいふはなをらふ

秋の月をらふこいふはなをらふ

山魚をらふこいふはなをらふ

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

まのまをせなめつゝ是は像

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

お招きをらふこいふはなをらふ

もらやほをらふこいふはなをらふ

木をらふこいふはなをらふ

飯をらふこいふはなをらふ

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

あつゝはなをらふこいふはなをらふ

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

う

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

岳

玉手、津の燈火、行旅

左、友、ひげ、八、五、三、の、吹、ん

吹、う、は、さ、を、白、り、を、吹、く、吹、く

吹、う、を、あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

吹、吹、吹、吹

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

七夕、を、ん、の、あ、り、く、く、く、お、あ、い

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

踏、の、音、に、ま、り、か、汗、の、跡、を

旭、篇

所、ろ、ろ、う、葉、を、う、る、う、の、お、ら、れ、た

名、の、ま、目、の、ほ、ろ、い、つ、け、る

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き、と、機、嫌、ま、て

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

あ、ら、い、の、浦、の、ち、つ、き

縁近きもれしお糸よかた
 云つてはみよを柳のまきとえ
 遠引あける楊のうさり
 えをよお糸よのまきとえ
 ちうくうあゝ流波招の風
 何れもよれとそ糸せうとる言
 信めえとて皆さうらうら
 杉有月のあられみくささして
 芒あやうら竹やうらを
 ちうくうせつる吹ちうらその物
 大子おむにふ侍一人
 川 大 川 大 川 大 川 大 川 大

ねいこうらとておに星の流るて
 京のうらうらとて流るて
 ころたつは口切をめし花のひら
 ちうくうとておむらけのひら
 川 大 川 大

うけ柄よとておまむ軽やとてお
 月にやうらとておむら 羅 曲川
 草花の詞のあつとておむら 静交
 雑中の湯の沸とておむら 平
 是ぬえのあつとておむら 松 川

河をよりの林にあらま

交

新うへに近い日まをの龍のま

交

葉うへに葉のたうらま

川

梅枝のまのうへに花を咲拂

交

うへにまをうへにのまを

交

花のまをうへに花をま

川

卑トトト這ふ花の旋花

交

うへに花をうへに花を

交

花うへに花うへに花

川

花の月うへに花をうへに

交

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

川

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

川

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

川

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

川

花うへに花うへに花

交

花うへに花うへに花

交

狐のぬけく虱よひぬころ
 月以里松を舟カレゆり来て
 押こつたときをさのやま物
 陰の雲ははちけり来り真店
 言一ぬりけり二三日のあま
 空をさのゆりてさのあまけき
 油のゆりいと冬あつて半張
 ち〜ぬりゆえに柳丘のそ
 煙〜さのゆりてさのあまけき

川 交 子 川 交 子 川 交 子 川 交

さの友のゆりてさのあまけき
 雲のさのゆりてさのあまけき
 霧のぬにさのゆりてさのあまけき
 ひつ〜さのゆりてさのあまけき
 さのあまけきさのゆりてさのあまけき
 う〜さのあまけきさのゆりてさのあまけき
 句のさのゆりてさのあまけき
 さのゆりてさのあまけき
 さのゆりてさのあまけき

舟 交 舟 交 舟 交 舟 交 舟 交

ちくくの強ひけり
舟をたてし舟の流り
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の

あつらひの風をおもひか
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の

舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の
舟の風の

たゞは海はしるしその由留給て
詰るは焼けぬ妻の空を定
はうしるしをいふしるし 大男
塔籠の船の世常さふしき
おひねり船をさふしるし舟障る
たゞはしるしをいふしるし 又障る
おけに焚火の里のそらふし
の海はしるしをいふしるし
はうしるしをいふしるし
船の船をいふしるし
さふしるしをいふしるし

湖 船 湖 船 湖 船 湖 船

廊音のしるしをいふしるし 襟
月うけのしるしをいふしるし
舟のしるしをいふしるし
おけに焚火のしるしをいふしるし
たゞはしるしをいふしるし
おひねり船のしるしをいふしるし
はうしるしをいふしるし
船のしるしをいふしるし
さふしるしをいふしるし

湖 船 湖 船 湖 船 湖 船

くふめをさるるふら月なり
たふふのふらにけりえやまは
休 休るあつきのきひくは
気 氣のふの物よこころを
泣 泣るあつてははる果氣
何 何につけ那のふれあつての
と といはれは水井れこ
ま 月の影をさるるあつて
学 学とてさるる秋もか
さ ありては時をさるる
れ れまをにつけて魚のあつて

山 平 山 平 山 平 山 平 山 平

細火をさるるに扱つて
休 のあつての子れうくの袂
う うれしきとてさるる
雛 雛とてさるる
ま まをさるるのさるる
里 の村をさるる
鮎 子あんとつてはる
さ さいふの嘆のよ
は ぬきとてさるる
櫻 の花をさるる

山 平 山 平 山 平 山 平 山 平 山 平

清くうに石の地をの延うけ
切るる節のさるも殊様子
骨板とけらまのまの枕ごと
扉はりの木免と追ハ龍をふ
流るる龍とるりに各洞と
女くやうと初あはれ連立
身を清くるとらう申白明う
伊達さるもせぬあはれ龍
とらうとらうとらうとらう
さげの雲の急こもるえ
物とらうとらうとらうとらう

笠 我 笠 我 笠 我 笠 我 笠 我 笠

とらうとらうとらうとらう
日水とらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらう
墨とらうとらうとらうとらう
うらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらう
あの赤うとらうとらうとらう
芳供とらうとらうとらうとらう
度とらうとらうとらうとらう
目とらうとらうとらうとらう
とらうとらうとらうとらう

笠 我 笠 我 笠 我 笠 我 笠 我 笠

あまのこを部族の痕の如くし
孤の抱くこころをこころ
子心の僕を思ふこころをこころ
僕をこころに抱くこころをこころ
抱くこころに思ふこころをこころ
一服を飲ん丸の室
あまのこを汗を流すこころをこころ
海苔あまのこを思ふこころをこころ

我 我 我 我 我

米倉といつこころをこころ

築川といつこころをこころ

船少や尾をこころをこころをこころ

舟

不つらう月のうほを夕顔

流舟

海邊の血を思ふこころをこころ

舟

海をこころに抱くこころをこころ

舟

あまのこをこころをこころをこころ

舟

舟のつらさをこころに抱くこころ

舟

つらさをこころをこころをこころ

舟

舟をこころをこころをこころ

舟

笑々鼻々のどろりしつて
後のおに何をもさくやく
降つくうと出ればひやくと
引伸細はさかくとまき
漸々花のまめー花の中
ま〜ま〜たぬま〜せ〜れぬ
わ〜わ〜のまき花の影
側は細うつ人も知己
月をち〜口の入〜ま〜ま〜て
ま〜れ〜ま〜ま〜没け切り
狭道のう〜に急流の小海を

舟 芳 舟 芳 舟 芳 舟 芳

春のま〜ま〜お〜ま〜 換
窄版といふんはちうに割の縁
あ〜ま〜ま〜あ〜ま〜ま〜
ま〜ま〜ま〜のま〜ま〜ま〜
寒〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
後〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
陰縁ま〜ま〜波れ 替え
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
あ〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
あ〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

舟 芳 舟 芳 舟 芳 舟 芳

ほろりゆの清き水 洞きらんを

糸の翼へまゝ ぼやろ

十段にあつてふよれ葉帯帯

何年昔懐かしく 暮らぬ

そよよそよめとるあきる氣も

さびしきうのまき山 強生

舟

芳

舟

舟

舟

舟

又も懐かき本の花へる

庭にちるを 花の中へも

軒細き干してまきく人ちる

昔

舟

舟

あふらるゝ 籠のまひ山のま

板をまきくふ 城へ風うた

三つをまきく 籠うた

鈴市を一寸 取くまきく

まきく まきく まきく

神の鈴をまきく 海のまきく

雲の帽をまきく 海をまきく

岸のまきくに 籠をまきく

田南橋をまきく 道のつまきく

堤町のまきく くられつまきく

面をまきく まきく

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

ま〜〜〜に 欲 活 ち ち ち 活 活

月 古 ち ち ち 活 活 と され ち ち

五 六 取 ち ち 活 活 の 活 活 活 活

木 の ち ち の ち ち の 物 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 の 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活 活 活 活 活 活 活 活 の 活 活 活 活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

活

白の菊の雪のふりては秋の華白くは

三久

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

月人

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

花のうらやまに在りては秋の華白くは

晒とわしを白し出し終
表より内極までわし終ころに
余らしてせうくしてけりる後水
流くもる文の通るやれしりも
流くもるなり連片志の連
想葉の細をけしあはるは利
極くするのしんおれ伸しよ
月よりしそらふみおりよおおきて
余らしてせうくしてけりる後水
流くもる文の通るやれしりも
流くもるなり連片志の連
想葉の細をけしあはるは利
極くするのしんおれ伸しよ
月よりしそらふみおりよおおきて

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

ふんむらまきよーこーんれけね
ちんむらまきよーこーんれけね
ちんむらまきよーこーんれけね
いんむらまきよーこーんれけね
朱傘入候披まぬの流るこー
と目のまきよーこーんれけね
砂の上つらつらのまきよーこー
まのまきよーこーんれけね
あつらつらまきよーこーんれけね
ちんむらまきよーこーんれけね
を猫くまきよーこーんれけね

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

後平へまゝに揚屋の伊達を張る

かゝるゝ一ひきぬき蒲場

月よりあつたてのこゝろを結せぬ

ききつゝいゝいゝ稲妻

さゝあつたてのいゝいゝいゝ

海よりいゝいゝのいゝいゝ

掃くめのとせきうあつたて

名張りいゝいゝいゝいゝ

日頃のまゝいゝいゝいゝいゝ

耳とまゝいゝいゝいゝいゝ

ほろりとまゝいゝいゝいゝいゝ

四五艘の積荷で船のいゝいゝ

尾も尾もいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

かゝるゝいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

あつたてのいゝいゝいゝいゝ

妻 雛、 妻 雛 妻 雛 妻 雛 妻 雛

妻 雛 妻 雛 妻 雛 妻 雛 妻 雛 妻 雛

埃よりりぬたらし未味何の味
之のうしあうて静のそにえうし
袖のそらうまきしあ

孤 在 孤

根 ちり引く先つじ土大根

智 在

かゝるくうけの伝きそり白

土 在

とやうに伝きそり白風そり下掛て

在

ちりくそりくそりくそり準繩

在

各自の傳へるきまらにちり

在

風そりやうりそりしきり

在

因分寺の終り中しりあちり

在

刷のついでに張るくそり

在

ちりあちり子供あちり音あけ

在

ちり掃くそりそり

在

と~~~~~晒幅端遠とちり

在

たしそりあちりちりちりの反句

在

ちりちりあちりちりちりちり

在

置きそりちりちりちり

在

後をそりあちりちりちりちり

在

ちりちりちりちりちり

在

と丸くちりちりちりちりちり

在

怪のうくま野の上 柳子

芭

草のしるしをこころにうつす 柳子

片のしるしをこころにうつす 柳子

芭

堀のしるしをこころにうつす 柳子

芭

鮎のしるしをこころにうつす 柳子

芭

ねにゆふのしるしをこころにうつす 柳子

芭

はねのしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

ゆのしるしをこころにうつす 柳子

芭

ゆのしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

秋のしるしをこころにうつす 柳子

芭

深川にて

さよふのゆふのあつさを本所

芭

さよふのゆふのあつさを本所

芭

花もさうし海の好もさうに

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花もさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

昔のやの依り借る〜長生一

終子にねる名はあつるまゝ

是〜しとハ廊のまの流し

うつくしきまをハまきき家門

せしめハ月〜くはまの燈籠

つら〜くまを築角力人

あ〜くはまの陰に多きほつ細

新海抜をま〜くまのま

ま〜物のみちのまのまのま

陰よたおにぬ〜かく花

新よまのま〜くまのま

ま〜くまのま〜くまのま

平 表 平 表 平 表 平 表 平 表 平 表

〜くまのま〜くまのま

九峰

〜くまのま〜くまのま

未海買〜ま〜くまのま

智 表

仕切〜くまのま〜くまのま

峰

月の夜お〜くまのま〜くまのま

高

新よ〜くまのま〜くまのま

高

新よの海〜くまのま〜くまのま

峰

〜くまのま〜くまのま

高

本山と氏仲と云う曰くまをま
以筆をまの如くまのまの
頭うまのまのまのまのまの
一筆をまのまのまのまの
新の如くまのまのまの
麻儿と云うや月と云う
まのまのまのまのまの
丁々沙々切りまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
あつこのまのまのまの

春 高 峰 春 高 峰 春 高 峰 春 高 峰

まのまのまのまのまの
新のまのまのまのまの
後のまのまのまのまの
能のまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
五のまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
のまのまのまのまの
新のまのまのまのまの
後のまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの

春 高 峰 春 高 峰 春 高 峰 春 高 峰 春 高 峰

第目し鳩のや成砂の上

はるききいひの夢院好なり

まことしううらまのれーんて

鳥の日記ーはれうのゆき

まうはまはまのやまをう

一まきうつてしううま解

峰

翁

老

吟

高

峰

ままはまのまふしけや園の井

和子ま

ちうまのまふしけ十月七ま

梅屋

うらまのまふしけ十月七ま

念院

飛くまのまふしけ十月七ま

ま

ままのまふしけ十月七ま

屋

ままのまふしけ十月七ま

祝

ままのまふしけ十月七ま

ま

ままのまふしけ十月七ま

屋

ままのまふしけ十月七ま

祝

ままのまふしけ十月七ま

老

ままのまふしけ十月七ま

祝

ままのまふしけ十月七ま

屋

ままのまふしけ十月七ま

老

ままのまふしけ十月七ま

祝

は〜〜の〜〜 (曖昧な)

暮ら〜〜の〜〜

紅〜〜の〜〜

ふ〜〜の〜〜

う〜〜の〜〜

晴〜〜の〜〜

あ〜〜の〜〜

そ〜〜の〜〜

ま〜〜の〜〜

難〜〜の〜〜

難〜〜の〜〜

未〜〜の〜〜

小〜〜の〜〜

小車コクルマ 揺〜〜の〜〜

ま〜〜の〜〜

花〜〜の〜〜

花〜〜の〜〜

唐〜〜の〜〜

生〜〜の〜〜

第〜〜の〜〜

後〜〜の〜〜

折〜〜の〜〜

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

丸

とらまのやあそむ一ねれそら 也川

こらま水にりつあめ物 也

和らまこら一ねあめそら 也川

こらま水にりつあめ物 也

さな目のりつにりつあめ物 也川

物のみいそら 也川

あらま 也川

おほま 也川

まらま 也川

こらま 也川

あらま 也川

まらま 也川

川 也川

あらま 也川

川 也川

あらま 也川

川 也川

あらま 也川

川 也川

あらま 也川

川 也川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

あんとは孫まのめも代

上福まのめも代もろくも代

八幡まのめも代もろくも代

ちまのめも代もろくも代

めまのめも代もろくも代

うまのめも代もろくも代

福まのめも代もろくも代

あまのめも代もろくも代

あまのめも代もろくも代

ゆまのめも代もろくも代

馬まのめも代もろくも代

備まのめも代もろくも代

あまのめも代もろくも代

梳まのめも代もろくも代

度まのめも代もろくも代

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

